

第一、佛蘭西關係

二、內閣一部改造事情

一、內閣交送事情

二、對獨政策

三、對露政策

四、英佛干係（前出）

五、佛米干係

六、佛伊干係

七、佛土干係

八、佛波干係

九、佛奧干係

一〇、中法實業銀行救濟問題

一 内閣更迭事情

一九二二年當初華府會議ニ於ケル佛國ノ不評ニ引續キ國內ニ於ケル
 對英反感ノ旺盛ハ對獨賠償問題ノ墜跌並對露政策轉換ノ徵候ト相俟
 ツテ本年當初佛國政界ノ空氣ヲ不安且神經質ナラシメタルコト休戰
 以來嘗テ見サル現象ヲ呈セリ事惡斯ノ如キ時ニ當リ終ニ「ブリアン」
 内閣ノ没落ヲ誘致スルニ至レリ

借「ブレ」内閣ノ致命傷トナレルモノ概シテ三點ニアリトイフヲ得ヘ
 ク(1)賠償政策ニ伴フ内閣不信任(2)歐洲經濟復興會議ニ露獨兩國ヲ參
 加セシムル件(3)英佛協定ニ對スル佛國輿論ノ不滿之ナリ

加之「ブリアン」内閣ノ立場ヲ困難ナラシメタル原因ノ一トシテ大
 統領トノ政見ノ相違ヲ擧ケサル可カラス現大統領「ミルラン」ハ一

(2)

大ニ〇半次員大録贈贈贈答受贈ニ類々同決及議注八々且間内閣議具
怠ル場合ニ佛國ガ之ニ制裁手段ヲ執ルコトヲ不可能ナラシムル虞アリ
ルコトヲモ注意セリ

「ブリアン」ハ前記二點ニ付テハ充分最高會議ニテ留保シ置ケルニ
付後日行違ヲ生スル虞ナキ旨ヲ答ヘタルモ大統領ハ更ニ今後反對解
釋ヲ生セサル様明瞭ニ最高會議ノ決定ヲ取付ケ置クヘキ旨ヲ力說セ
リ

於是「ブリアン」ハ内閣ノ意見ヲ求ムル爲ニ閣議ヲ開カンコトヲ電
請シ十日ノ閣議ニ於テ大統領ヨリ「ブリアン」トノ間ニ往復セル電
報ヲ披露シ其意見ヲ求メタリ閣議ハ「カンヌ」ニ於ケル「ブリアン」
ノ措置ヲ悉ク承認スルヲ肯セス寧ロ大体ニ於テ大統領ノ意見ヲ承認
シ左ノ趣旨ノ決定ヲ爲セリ

「イギリス」への賠償に關しは、先般最高會議ニテ留野公斷クモ
スロトモテ注意ナリ

意々聯合ニ對國ハ以ニ賠償手續ヲ降スロトモテ不問論ナリシムルヲ對テ

一 歐洲經濟復興會議ニ露國ヲ參加セシムル場合ニハ充分ノ保證ヲ
取り付ケ置クヘキコト

二 獨逸ノ賠償支拂ニ一部「モラトリウム」ヲ許ス場合ニハ今後ノ
支拂ニ對スル保證ヲ求メ且或種ノ監督權ヲ請求スヘシ又白耳義
優先權ヲ害スル如キ措置ヲ執ラサルコト

三 英佛協約ハ英佛兩國カ全然均等ノ立場ニ於テ相互ニ安全ヲ保證
スヘキコト又右協約ノ結果佛國カ獨逸ニ對シ條約履行ノ保證ヲ
弱ムル如キコトアル可ラス

右閣議ノ決定ニ際シ「バルツ」 「マジノ」 「ツォーメル」等ノ
有力ナル大臣カ「ブリアン」ノ政策ニ反對シタリト傳ヘラレ四國ノ
形勢「ブリアン」ニ不利ナリシハ言ヲ俟タスト雖モ同時ニ大統領ノ

二 歐戰ノ發端支那ニ一掃ノ事ヲ期スルニシテ其ノ第一ノ歩ヲ爲スルニハ先づ
東リ洋々諸國ノハキコト

一 湖廣總督與會總ニ歐戰ヲ發端スルニシテ其ノ第一ノ歩ヲ爲スルニハ先づ

威力モ暗々裡ニ閣議ノ決定ヲ左右スルカアリタルコトハ想像ニ難カ
ラス加之巴里諸新聞紙ハ「タン」「マタン」ノ如キ政府擁護派ニ至
ルマテ齊シク議會ノ意見ヲ支持シテ「ブリアン」内閣反對ノ聲益々
旺ナルニ至レリ

一方上院外交委員會ハ首相カ會テ「カンヌ」會議ニ於テハ佛國ノ賠
償ニ對スル「ガラランチー」ヲ一步モ讓ル所ナカルヘキヲ聲明シタル
ニ拘ラス最近佛國ノ本年受取賠償額ノ削減ノ報アリタルヲ以テ一月
十日斷固タル保障要求ヲ爲シ下院財政委員會モ亦賠償權ノ害セラル
、ヲ憂ヒ首相聲明ノ維持ヲ希望シテ翌十一日略同様ノ決議ヲ爲セル
ヲ以テ「ブリアン」ハ最高會議半ハニシテ十二日朝巴里ニ歸リ直ニ
閣議ニ參加セリ

マス田中巴里種族博覧會ノ意見ヲ交與シテ「ブリアン」ノ内閣ヲ解任ノ聲浪ヲ
熾クシテ閣員ノ不協同ノ現象ヲ示シ「ブリアン」ノ職ヲ解任せしむルニ至
リ

然レトモ新聞紙及議會ノ大勢ハ共ニ「ブリアン」ヲ離レテ閣議モ遂
ニ收拾ノ余地ナク首相ハ午后三時下院ニ臨ミ自己カ「カンヌ」ニ於
テ取レル政策ノ決シテ誤ラサルヲ辯明シタル後内閣員一同ト共ニ辭
表ヲ提出セリ

於是大統領ハ直ニ上下兩院議長ト共ニ後繼内閣組織ニツキ協議ヲ開
始セリ後繼内閣ノ首魁カ何人タルヘネカニ就テハ既ニ數ヶ月以前ヨ
リ種々ノ風評アリ或ハ下院議長「ラウル・ベレ」ヲ推ス者アリ上院
議員「ジョナール」ヲ適任トスル者アリ

然レトモ世評ハ「ボアンカレ」ノ推薦者多數ナルヲ是認セリ
「ボアンカレ」ノ内閣組織難ヲ主張スル者ハ第一ニ彼カ賠償問題ノ
決定ニ際シ「ミルラン」ト衝突シタル事實ヲ擧ケ「ミルラン」ハ到

ニ於テハ余此ノ首相ハ平氣三朝ヲ謂ニ嗣々自白ク「オノヌ」ニ就
熱ノイテ豫聞豫選國會ノ大體ハ共ニ「アノ」ヲ謂ニテ閣議ヲ議

底彼ヲ首相トスルヲ肯シセサルヘシト云ヒ又他方彼カ「マタン」
タン」ノ兩新聞「ルヴ」ユ、デ、ドウモンド」ノ寄稿家トシテ殆ン
ト毎週政治評論ヲ執筆シ而モ其意見ハ多ク「ロイド」ヨ「ジ」反對
ニシテ英國側ノ同情ヲ失セル事實ヲ擧ケタリサレト其識見精力ハ議
員政客ノ群ヲ抜キ戰前戰後ノ内外政務ニ通曉セルコト又彼ニ比スヘ
キ者ナキ今日上下兩院ノ議長カ期セスシテ「ボアンカレ」ヲ後任首
相ニ推薦セルコト固ヨリ當然ノ歸結ナリ

「ボアンカレ」ハ十二日夕刻大統領ヨリ内閣組織ノ委託ヲ受ケ其回
答ヲ留保シテ政友ト協議ヲ初メタルカ翌十三日午后正式ニ内閣組織
ヲ承諾セリ「ボアンカレ」最初ノ希望ハ社會黨、共產黨及王黨ノ左
右兩極ヲ除ク外議會各派ノ領袖政客ヲ網羅シテ所謂國民聯合大内閣

専門學務

航空

代議士 ヴイダル

代議士 エイナツク

右ノ顔觸ニヨリ年金省ヲ廢シテ陸軍省ニ合併シ尙四名ノ「スースク
レテール、デタ」ヲ廢止シテ行政整理ノ一端ヲ示セリ

新内閣ハ一月十九日上下兩院ニ於テ其政綱ヲ發表シ諸平和條約實施
財政整理、國防組織、兵役年限短縮、社會政策的設備ヲ目下ノ急務
ト爲シ賠償ノ實施ヲ佛國財政救済ノ條件トセリ尙佛國ハ帝國主義的
ナルコトヲ否認シ小協商ノ如キ各種平和樹立協定ハ之ヲ歡迎スヘク
國際聯盟ヲ支持スヘキコトヲ明言セリ

「ゼノア」會議ニ關シテハ各國ハ先ツ「カンヌ」會議諸條件ヲ承諾
スルヲ先決條件トシ諸條約ノ規定ヲ左右セサルヘキ保障ナキニ於テ

ハ佛國ハ之ニ臨ム能ハス又近東ニ於テハ英國ト協議シ平和ヲ回復シ
佛土協約ノ利益ノ實現ニ努メ英米等ノ同盟諸國ト從來ノ友誼的干係
ヲ最モ親密ナラシムルト同時ニ佛國ノ利益擁護ノ爲ニハ確固タル態
度ヲ持スヘキコトヲ聲明シタリ

右掲ノ綱領ハ千九百二十年ノ初頭「ミルラン」内閣ノ發表シタル聲
明ト酷似シ對獨條約ノ嚴格ナル履行ヲ求メ獨逸ノ條約不履行ニ對ス
ル制裁權ヲ主張スル等悉ク其ノ軌ヲ一ニスルモ新内閣カ「ブリアン」
内閣ニ發源セル對英對獨妥協政策ノ潮流ヲ一九二〇年ノ初頭ニ立歸
リテ止メ得ヘキヤ否ヤハ問題ナリ

「ブリアン」内閣ヲ更迭セシムルコトハ必スシモ根本ヨリ其政策ヲ
立テ直サント企圖セルニハ非ス「ブ」内閣カ英國トノ折衝ニ於テ終

冊主謝禮ノ旨益ノ實度ニ察ス英米等ノ同盟諸國ノ將來ノ支配印子料
ハ海國ハ之ニ親シシハス又亞東ニ欲テハ英國ノ強弱ハ平味ノ同好シ

始受身ニ立チテ一步一步佛國ノ要求ヲ讓歩セサル可ラサル態度ニ肝
癢玉ヲ破裂セシメタルコト今回政變ノ直近原因ナルヘク所謂軟弱外
交ヲ打破シタルモノトイフヘシ

歐州の獨逸が、今同運變へ直我意因テハ、之復歸陣被我
欲受其ニ立キテ一巻一巻獨逸ノ要求ヲ觀望セザル所ヲモテ其意趣ニ刊

二、對獨政策

(1) 獨逸ハ本年一月以降ノ賠償支拂ニ困難ヲ感シ昨年十二月十四日賠償
委員會宛書翰ヲ以テ本年ノ支拂ヲ完全ニ履行シ得サルコトヲ通告シ
佛國議會ニ於テハ一時其支拂ヲ猶豫スルコト止ムヲ得ストシタルモ
之カ爲ニ賠償總額ニハ變更ヲ加ヘサルコト及獨逸ニ對シ今後ノ支拂
ニ對スル必要ナル保障ヲ要求スルコトヲ條件トシタリ英國ハ之ニ反
對シ結局倫敦ニテ英佛專門家間ニ賠償案協定セラレタル結果獨逸ニ
一時的「モラトリアム」ヲ許容スルコト止ムヲ得サル形勢ニ立至レ
ルノミナラス配分額ニツキ佛白間ノ利害ノ調和困難トナレリ
於茲佛國議會ノ「ブリアン」內閣信望全ク地ニ墜チ遂ニ其ノ轉覆ヲ
見「ボアンカレ」內閣成立セリ

(1) 露國ハ本埠一員以繼ハ露國支那ニ困難ヲ起シ和平十二員十國日部對
ニ、露國支那

(2) 「ボアシカレ」ノ對獨政策ハ之ヲ「ブリアン」ニ比スレハ更ニ嚴格 (2)

ノ度ヲ加ヘ平和條約規定ノ實施ヲ期シ獨逸ノ軍備撤廢ノ現實ナル履
行アルニ非レハ其ノ軍備ヲ縮少セス賠償ニ關シテハ獨逸カ五月卅一
日迄ニ賠償委員會ノ要求ニ應セサルトキハ條約上各國ハ其ノ利益保
護ノ爲單獨行動ヲ執ルヲ得ルヲ以テ聯合國ノ協調ハ素ヨリ切望スル
所ナルモ斷然條約擁護ノ途ニ出スルコトアルヘシトイフニアリ

(3) 一方「ラバロ」協約ニ對スル佛國ノ輿論ハ該協定ノ裏面ニハ必スヤ
軍事上ノ内協定アルヘク「ヴェルサイユ」條約侵害ノ危險ニ關聯シ
先ツ波蘭國ニ對スル脅威ヲ恐レ之ニ對スル對獨懲戒トシテ單ニ「ゼ
ノア」會議ニ於ケル露國ノ問題ニ參加セシメサルノミニテハ尙不充
分ナリト云フニ一致セルモ該協約ニ依リ佛國政界ノ對獨感情ハ間接

シニ據スル學識ヲ察スルニ正片二十次日録ノ部會委員會ニ據
ルニ鑑テハ實ニ「ライム」號式ヲ古跡スヘシト云フ又直議ニ就テモ
ニ益々學識ノ部會委員ハ正片末日ニ至リ歐佛諸國ノ部會委員會ノ部會委員

(5) 八月一日獨逸ハ對佛艦隊ニ於テ支拂額ノ減縮ヲ求ムルニ非ス單ニ「モ

ラトリウム」ヲ要求スルモノナル旨ヲ述ヘ佛國ハ同日附回答ニテ依

然條約ノ定ムル權利ニ寸毫ノ假借ヲ加ヘス願レハ「ミルラン」以外

歴代ノ首相ハ英佛協約ノ維持ト對獨條約履行ト「チレンマー」ニ違

巡シタルモ「ボアンカレ」田馬以來佛國議會ハ英國トノ協約ヲ犧牲

トスルモ自己ノ對獨政策ヲ遂行スルノ外ナキヲ感知シ來レルカ如ク

彼ノ八月七日ヨリ十四日ニ沙レル倫敦會議ノ不調ハ以上ノ機運ヲ明

白ニ表示スル機會タリシ事疑ナシ

一方獨逸側ニ在リテハ減額ノ實現ハ不可能トスルモセメテ支拂延期

ヲ得度キ旨ヲ要求シ賠償委員會ハ白耳義案ヲ採用シ事實ニ於テ「モ

ラトリウム」ヲ許與セル結果トナレリ佛國カスル讓歩ニ出タル事情

熱海邊ノ故ムハ...
テ...
(2) 八月十一日...

ハ種々複雑セルモ要ハ白耳議案ニ從フモ佛國ノ主張ハ今後更ニ提議
シ得ル途アルノミナラス來ルヘキ國際會議ニ於テ一層廣汎ナル賠償
解決案ノ採用セララル迄本件ヲ延期スル迄ノコトニテ名目上ハ「モ
ラトリウム」ヲ拒絶スルコトニモアリ且ハ聯合國ヨリ孤立スル政策
ヲ執ルノ不得策ナルコトヲ感知シタルカ爲ナルヘシ

(6) 然レトモ賠償問題ハ結局ニ於テ獨逸側ヨリ佛國ノ希望通り支拂ヒ得
ヘシトハ思料シ得ス十一月中心「ボアンカレ」ハ倫敦ニ人ヲ派シテ「ラ
イシ」地方占有ノ企圖ニ關スル英國側ノ意圖ヲ探リタル事實アリ同
月十七日ノ下院ニ於ケル答辯演說中「ボアンカレ」ハ獨逸ノ不信ヲ
鳴ラシ馬克下落ノ主要原因ハ豫算ノ不均衡ト通貨ノ膨脹ニシテ該危
機ノ責任ハ獨逸ニ在リトシ獨逸ノ實情ハ賠償委員會ノ柏林ニ於ケル經

十月二十五日ノ議決ニ依リテ國ハ總裁ニ付シテ同等處士選舉ノ事
上議院ニ付テ對峙ノ關係ヲ廢棄スルヲ請ハスニ付リ
議ニ對シテ問ニ付テ總裁ノ無効意對不備意旨謂ニ據エタリ國ハ紛糾

三、對露政策

(1) 一九一七年「レーニン」政府カ「ブレスト、リトウスク」ノ
條約ヲ以テ獨逸ト阜獨請和ヲ爲セルコトハ御國國民ニ拭フ
可ラサル印象ヲ與ヘタリ之ヲ以テ「ウランゲル」及「澤ニ至ル
迄」御國ノ對露政策ハ一貫シテ反起激派ノ變動ニアリキ同時
ニ「ロシア」ノ依賴ス可ラサルヲ見テ御國ノ同情ハ糾然トシ
テ波蘭及「チエツコスロヴァキア」ノ上ニ集リ再ヒ大露國ノ
越設セララル迄ハ新「スラヴ」國ヲ率ヒテ獨逸ノ東國說ニ其
勢力ヲ牽制スルコト其ノ不變ノ政策ナリキ
然ルニ「ウランゲル」政府崩壊シテ露國内部ニ反起激派ノ勢
力一掃セラレテヨリ御國ハ時局觀望ノ態度ヲ執リタルカ動記

(1) 一五一年「フリーニク」連隊及「ブラス」...

仰國ノ強硬ナル對露政策ハ「ブリアン」内閣ニ至リテ稍緩和
セラレ民衆ノ進取派政府ニ對スル反感モ亦昔日ノ如ク強烈ナ
ラサルニ至レリ

然レトモ大統領「ミルラン」及議會ノ多數黨タル國民團結ノ
議員ハ未ダ誠ニ緩和政策ニ急變スル能ハス「ブリアン」内閣
ノ復役ハ少クトモ加國ノ露國政府承認ノ傾向ヲ強執セシメタ
ルコトハ略疑ヲ容レサル處ナリ

(2)

(S) 〇〇〇ニ其對馬諸藩領州ハ前編領州ノ對馬ヲ據スル取手宜
對馬付ノヒト觀メヤリ〇〇〇三民隊ニ至リテクモ〇〇ノ〇〇

(3) 諸國承認ニ關スル「ボアソカレ」ノ意見ハ威能カ證メ「カソ
又」會議決定ノ條件ニ對シテ明ニ保障ヲ與ヘ且其ノ實際ノ
監督可能ナルニ非サレハ同問題ノ容許ニ關シ何等拘束セラル
ル事ナク之カ拒否並ニ其ノ容許ノ結果ヲ採用スルト否トハ全
然佛國ノ自由ナリトスルニ在リ

議事録
又「會議中依然強硬ナル態度ヲ執リ露國ノ主張ニ係ル「カン
シ露國債務ヲ後ニスル議ニ對シテハ率先反對ニ出テ又聯合
ノ對露債務ニ對シ「バルツ」全權ヲ加ヘタル五月三日ノ
議ニ於テ審議ノ結果露國政府ハ日丹義ト協議ヲ保ツコトニ決
議セル等對露問題ニ對シ總テ英國ト離レテ白國ト協力スルノ
傾向ヲ生セリ即チ現在露國ト一般的協約締結ヲ可能ナリトス
ル英明説「之ヲ尙早ナリトスル佛國並大陸諸國備ノ意見ハ
ゼノア」ニ於ケル對露政策上ノ根本的差異ヲ有スル剛意見ニ
シテ海牙會議中ニ於ケル趨勢亦然リ

(4) 「ゼノア」會議中露獨協約締結セラレタルニ對シ佛國政府ハ
該協約ノ無效ヲ主張スヘキ事ヲ全權ニ訓令スル所アリタリ斯
クテ會議中依然強硬ナル態度ヲ執リ露國ノ主張ニ係ル「カン
又「會議ノ順序ヲ顛倒シテ露國援助資金ト正式承認トヲ先ニ
シ露國債務ヲ後ニスル議ニ對シテハ率先反對ニ出テ又聯合
ノ對露債務ニ對シ「バルツ」全權ヲ加ヘタル五月三日ノ
議ニ於テ審議ノ結果露國政府ハ日丹義ト協議ヲ保ツコトニ決
議セル等對露問題ニ對シ總テ英國ト離レテ白國ト協力スルノ
傾向ヲ生セリ即チ現在露國ト一般的協約締結ヲ可能ナリトス
ル英明説「之ヲ尙早ナリトスル佛國並大陸諸國備ノ意見ハ
ゼノア」ニ於ケル對露政策上ノ根本的差異ヲ有スル剛意見ニ
シテ海牙會議中ニ於ケル趨勢亦然リ

(4) 「イノイ」會議中露國代表等が「イノイ」に對する露國の對露感情ハ稍緩和セラレ寧ろ露國トノ通商復

(5) 然ルニ以後佛國ノ對露感情ハ稍緩和セラレ寧ろ露國トノ通商復

活ヲ利益ト見タル爲カ九月半「リヨン」市長「エリオ」氏ハ一

般ニ勞農露國トノ經濟的文化的接近ヲ計ルコトヲ目的トシテ渡

露シタリ同氏ト佛國政府トノ間ニハ當初ヨリ何等了解アリタル

モノノ如ク其ノ旅行ノ主タル目的ハ(a)戰前債務(b)従前露國ニ存

在スル佛國政府及人民ノ財産ニ對スル保障(c)兩國經濟關係ノ復

活ノ三事項ニ對スル露國側ノ意嚮ヲ探リタルモノナリ

同氏ハ先ツ伯林ニ於テ「チチエリン」ト談判シ莫斯科着後ハ主

トシテ「カラハン」ト交渉シタルカ露國政府ハ頗ル之ニ氣乗シ

「カラハン」自身モ最初ヨリ佛國ノ希望條件ヲ容ルルコト不可

能ニ非ストノ意見ニテ交渉ハ頗ル順調ニ進捗シタル由ナリ但シ

具體的進捗ヲ見ルニ主ラサリキ尙「エリオ」氏ハ之等目的ノ他

佛國商工業者ノ依頼ニ依リ狀況調査ノ爲各門家帝同地地方ニ

部ヲ時益々見多ク銀貨流通半「リ」可異「エ」テ「出」ハ
(己) 然ルニ以テ對國ノ經濟政策ハ時時味ヲ「」シテ口實國「」ノ取商略

旅行セル結果「」トシテ地方鑛山事業ニ着手スルコト頼ル有量ナ
ルヲ信シ又佛國ヨリ黒海ヘノ海上交通ニ關スル計劃ヲ立ツルニ
至リタル趣ナリ

「」エリオ「」氏ノ露國行ハ右ノ如ク諸方面ニ涉リ露露關係復活促
進ニ力アリタルカ十二月初旬在柏林露國大使館情報部長「」ウス
テ「」ヴ「」ヲ長トスル露國赤十字班ハ佛國ニ入り爾後「」ヲルセイ
ユ「」ヲ活感本部トシ主トシテ佛國殘留ノ露國軍隊ノ歸還事業ニ
從事スヘシトイフモ右ハ表面上ノ目的ニ過キス其ノ眞ノ目的ハ
政治的方面殊ニ佛國政府トノ接觸ヲ圖ルニ在ルモノノ如シ。

四英紳干係（英國調書中ニ出ツ）

英領事館
文書
一八五九年
八月
二十日
倫敦
英領事館
文書
一八五九年
八月
二十日
倫敦
英領事館
文書
一八五九年
八月
二十日
倫敦

8

五米佛干係

(1) 三月米國政府ハ聯合國大藏大臣會議ニ對シ同國ノ萊因占領軍費全額償還請求ヲ爲セリ右ハ聯合國大藏大臣カ瑞逸ノ支拂ヲ占領軍費用ニ充當セントスルニ當リ瑞リ米國ノミヲ除外セントシタルヨリ總制確保ノ意味ニテ請求セルモノナリトイフモ佛國輿論ハ不快ノ感ヲ以テ之ヲ視、米國カ萊因地方ニ駐兵スルハ聯合國ノ請求ニ基クモノナレハ瑞逸ニ對シ之ヲ請求スル權アルヲ認ムルモ聯合國カ「ヴエルサイユ」條約ニ依リテ確保スル賠償請求權ヲ損スルコトヲ得スト主張セリ

一般ニ佛國民衆ノ米國ニ對スル態度ハ華盛頓會議以降著シク變化シ米國カ一方「ゼノア」會議等ニ參加セス歐洲諸國トノ

完全謝絶謝絶来マ致ナリ各ハ聯合國大憲大印を以て之を交納マ
(一) 三員米國政府ハ聯合國大憲大印會議ニ據リ同國ハ泰西古所踏
兵米將干預

協調ヲ一切拒絕シツツ他方ニ於テハ其ノ權利ト信スル點ハ之
ヲ不快ナル方法ヲ以テ主張スルヲ憚ラサルニ對シ大ニ改鑿ヲ
加フルアリ之等ノ感情ハ引テ海軍制限條約批准ノ上ニモ影響
アリ得ヘキナリ

不測ナルハ仕事ヲ以テ生懸スルヲ購マセハニ保シ大ニ遊覽マ
爾時ニ一財計録ニシテ財ニ就テハ其ノ餘餘イ計スルヲ購ハシ

(2) 五月十五日米國各地銀行業者及企業家ヨリ成ル米置投資銀行

團員約四十名、佛國大藏省外務省及工部省ノ招請ニ應シテ産

業状態調査ノ爲渡佛各地ヲ巡視セリ

右來遊ハ「モルガン」氏カ賠償委員會ノ招請ニ應シ接濟スル

魁トシテ實行セラレタルトコロナリ

(12)

(S) 五月十五日米國各報論議米國對佛國之政策及金銀幣之問題

(3) 四月米國政府ハ佛國政府ニ對シ戰時債務整理委員會設立ノ次第ヲ通告シ之ニ對スル佛國狀況説明ヲ乞ヒ委員派遣方ヲ招請シタル結果大藏省公債局長「バルマンチエ」派遣セラレタリ然ルニ米國側ハ佛國委員ノ説明ニハ餘リ重キヲ置カス佛國カ將來米國ニ支拂ヒ得ル金額及其時期ヲ提示センコトヲ求メ立入りテ佛國財政ヲ批評スル等佛國ニ不利ナル形勢ヲ示シタル折カラ八月一日ノ「バルフォア、ノート」發表セラレ一層不利ナル情況ヲ呈シ來レル爲本國政府トノ打合ヲ口實トシテ委員ヲ石邊セリ

第三 報告
(5) 四月米國海軍ハ特國海軍ニ優シク彈射機艦隊委員會設立ノ事

(4)

「モルガン」氏ハ五月二十三日以來巴里ニ於ケル銀行家委員會委員トシテ會議ニ列席シ對獨國際借款ニ關シ協議スルト
コロアリシカ六月ニ至リ終ニ不課ニ墜リ同氏ハ十一日巴里出發歸國ノ途ニ就キタルカ其際發表セル「ステートメント」ニ依レハ賠償委員會ヨリ銀行家委員會ニ委任セル權限ニ付英佛間ノ意見一致セス殊ニ佛國政府ハ銀行家委員會力對賠償權總額ヲ削減スル事ハ承認シ難シト爲スモ同委員會ハ單ニ彈射機借款ヲ起シ得ル基礎ニ就キ建言スヘキ事ヲ委任セラレ賠償總額ニ關シ審議シタル事ナク單ニ獨逸ノ年支拂額ヲ研究セルノミ・要スルニ佛國ノ態度變セサル以上同氏ノ事業ハ到底實效ヲ齎スノ途ナキニ至リシナリ

(4) 員會委員イシキ會議ニ際シテ
「キムズ」ハ正月二十三日以來
巴里ニ於テ...

(5) 「クレマンソー」ノ米國訪問ノ舉ハ總テ計畫中ナリシカ...

十一月十一日巴里ヲ出發セリ此ノ旅行ノ目的ハ平和克復後殊ニ華
府會議以來モスレハ米國ニ於ケル對佛感情惡化セントスル傾ア
ルヲ以テ米國政府有志者カ國民ヲ起シテ米國ニ於テ親シク佛國ノ
立場ヲ説明セシメントセルナリ

「クレマンソー」ハ渡米後紐約ニ於ケル第一回ノ演説ニ引續キ「
ボストン」市俄古華府等ニ巡回演説シタルカ米國トシテハ米英佛
三國ノ會議ニ依リ歐洲問題ヲ解決スヘシトナス彼ノ意見ニ共鳴セ
ルモノ少ク上院ニ於テモ「ツエ
ルサイユ」條約反對ノ急先鋒タリ
シ「ボラー」及同贊成者ノ首領タリシ「ヒ
ツ
チ
コ
ツ
ク」兩氏ノ攻
撃ヲ受ケ新聞界ヨリノ氣受ケモ良好ナラス一般ニ同氏渡米ノ舉ハ

成功ト言フヲ得サルヘシ

(2) 「クニマノクニトシノ米國諸國ノ學ハ幾ク清書中ナリシニ云々」

(16)

憲法イ言クマ得ヤムヘシ

六、佛伊關係

(1) 佛國カ華府條約ノ批准ヲ躊躇スル理由ノ中、獨逸ヨリ蒙ル脅威

ハ其ノ一大要素ナルコト疑ナキトコロナリト雖モ尙其ノ重大

ナル一要素トシテ認ムヘキモノハ其ノ對伊關係ニアリ勿論現

在佛伊兩國間ニ戰爭ノ危險ハ伏在セサルモ兩國ノ關係ハ兎角

不快ナル感情ノ行違ヲ免レス依ツテ海軍制限條約等ニ依リ長

キ將來ヲ拘束スルハ到底佛國ノ堪ヘ得サル處ナルカ如シ

(17)

(1)

(2) 五月廿四日調印セラレタル伊露間通商協約ハ未ダ正式ニ發表

セラレサルモ伊露新聞紙ノ發表セルトコロニ依レハ伊國人ノ

受ケタル「コンセツション」ハ將來國有化セラレサル可シト

ノ一節アリ「ポアンカレ」首相ハ石井大使ニ對スル談話中右

條項ヲ評シテ右ハ伊露式ノ巧妙ナル手段ニシテ通商協定

ル假面ノ下ニ「ソワイエト」政府ノ國有化政策ヲ拘束スルモ

ノニシテ彼ノ「ラバロ」條約以上ノ效果アル可ク新ル單獨協

定許サルニ於テハ將來之ヲ眞似ル者續出スヘシト語リタリ

(3) 正長廿四日... 王長廿四日... 未定ニ...

七。佛土關係

(1) 客年十一月締結セラレタル佛土協約ノ規定ニ從ヒ「シリシア」

ニ於ケル佛土占領軍ハ本年一月四日迄ニ撤兵ヲ完了セリ然レ

レモ右撤兵ニ伴ヒ人心多少動搖セルモ何等ノ事故ヲ生セズ唯

同地方在住ノ基督教徒約五万五千人中土耳古人ノ虐殺ヲ恨レ

テ撤兵ト同時ニ移住セル者實ニ五万人ノ多キニ達セリ

(2) 「アンゴラ」外務委員一行ハ三月一日出發候シタルカ君府

政務副ヨリモ外務大臣「イゼツト、バシヤ」ヲ英佛伊三國ニ

派遣スルコトトアリ同月四日君府ヲ出發セリ「アンゴラ」委

員ハ「バクト、ナシヨナル」ニ基キ對希臘講和條件ニ對スル

要求ヲ各該政府ニ傳達スルコトヲ目的トスルモノナルカ君府

(1) 第十十一月...
子...
...

外相モ同シク土耳其政府ノ諒和ニ對スル希望ヲ各國政府ニ説
明セントスルニアリキ

爾來近東問題政策ハ英佛間ニ多少ノ距離アリ前者ハ依然休戰
實現ヲ期ク前ニ土耳其カ三月ノ巴里外相會議ノ決定セル解決
案ヲ全部承認スヘシト爲スニ對シ後者ハ土耳其カ巴里決定ヲ

前敵ノ基礎トシテ承認スルヲ以テ足ルト爲セリ

英佛ハ其ノ主張實行ノ爲三月外相會議決定事項ヲ承認スヘキ

旨ヲ希土双方ニ「アルチマタム」ヲ送ラント提議シタルモ佛

國領ハ斯ル壓迫ヲ加フルヲ欲セス殊ニ其言用ビラレサル場合

武力ニ訴フル決心ナクシテ「アルチマタム」ヲ送ル能ハサル

ヲ推測シテ反對セル結果最後手段ハ沙汰止トナリ兎ニ角英佛

英領土に對する古來の權利を認むるに當り、

伊監護ノ下ニ汝方ヲ曾合セシムル事ニシテ既終レリ

(3) 九月希土戦争ノ狀勢傳ハルヤ師團新聞ハ一齊ニ土軍ノ勝利ヲ

特筆シ英國ノ近東政策ニ對スル一大打撃トナシ一般ニ土耳其

ノ領土回復ニ同情ヲ表シ休戰尙早説ヲ唱ヘタリ

(4) 然レトモ「ムダニア」休戰協約ノ締結以來土耳其ノ行動相モ

スレハ過激ニ走ルニ及ビ師團ノ同情ハ次第ニ減シ十一月十七

日下院ニ於ケル首相ノ答辯中ニモ「ローザンヌ」會議ニ於テ

師團ハ如何ナル場合ニモ聯合國ノ協談ヨリ離脱シテ單獨行動

ヲ執ル事無ク何時ニ近東ニ於ケル平和ノ確立ヲ希望シ元來師

團「アンゴラ」間ニハ協談ヲ存ヘレトモ聯合國ヲ離レテ講和ヲ

爲スノ意思モナク權利モナシト言明スル所アリタリ

(3)

各該事ノハキハナリ

九 佛境關係

佛國政府ハ境地利政府ニ對シ五千五百萬法貨付ノ案ヲ議ニ下院ニ提出シテ通過セルカ六月十三日上院ニ於テ可決セリ
同日「ボアンカレ」ハ同案提出ノ理由ヲ説明シ佛國ノ政策上平和條約ニ依リ獨境ノ結合ヲ防ク爲目下恐慌ニ迫レル境國救済ノ必要アルニ因ル旨ヲ力説セリ

ニ對出シテ... 六月十三日... 正午五百萬... 總ニ可...

一〇、中法實業銀行救済問題

(1) 癸年十二月廿七日下午院ニ於テ可決セラレタル樞密ニ於ケル佛

債ノ威信ヲ保持シ中法實業銀行ヲ救済スルコトニ關スル政府

信任案ハ上院ニ廻付セラレ三月三日可決シタリ右案ニ依ル救

済方法ハ支那ニ於ケル銀行債權者ハ佛國カ支那政府ニ對シテ

有スル國債事件ノ賠償ヲ引當トシテ發行スヘキ五分利公債ノ

範圍ヲ以テ支拂ヲ受クルニアリ

(2) 尙同銀行ノ事業整理ノ爲佛國ニ於テ一考案アリ右ニ依レハ資

本金千萬法ヨリ成ル會社ヲ組織シ同銀行ノ關係事業及債權取

立等一切ノ事務ヲ管理スルニアリ右ノ方法ニ依リ預金者及株

主ハ全損ヲ受クルコトナク銀行ノ整理ヲ爲シ得ヘシトイフ

(1) 泰平十二年廿五日...
中法實業銀行...
佛領印度支那總管...
中法實業銀行ニ關シ佛國大銀行カ極東各地ニ支店ヲ有スルハ
佛國對力扶植ノ一要素ニシテ同銀行ノ失敗ハ頗ル祖國ノ利益
ヲ傷ケタルヲ以テ此際同銀行ニ對スル土人ノ預金ハ必ス支拂
フヲ要スル旨ヲ遞ヘ有效ナル救濟方法ノ實施ヲ勸告セリ
(4) 前掲(2)ニ依ル整理事業ハ愈々其ノ實行ヲ見ルニ至リ西貢ニ於
テ十月十六日ヨリ中法實業銀行管理會社ノ名ノ下ニ閉店シ一
般銀行業務ヲ取扱フコトナレリ但舊銀行取扱ニ係ル預金拂
戻時期ハ未定ナル由ナリ
(5) 佛國政府ハ國匪事件賠償金殘額ヲ救濟ニ利用スル件ニ付本年
七月中在支公使ヲシテ支那外交總長トノ間ニ覺書ヲ交換セシ

- (3) 佛領印度支那總管...
中法實業銀行ニ關シ佛國大銀行カ極東各地ニ支店ヲ有スルハ
佛國對力扶植ノ一要素ニシテ同銀行ノ失敗ハ頗ル祖國ノ利益
ヲ傷ケタルヲ以テ此際同銀行ニ對スル土人ノ預金ハ必ス支拂
フヲ要スル旨ヲ遞ヘ有效ナル救濟方法ノ實施ヲ勸告セリ
- (4) 前掲(2)ニ依ル整理事業ハ愈々其ノ實行ヲ見ルニ至リ西貢ニ於
テ十月十六日ヨリ中法實業銀行管理會社ノ名ノ下ニ閉店シ一
般銀行業務ヲ取扱フコトナレリ但舊銀行取扱ニ係ル預金拂
戻時期ハ未定ナル由ナリ
- (5) 佛國政府ハ國匪事件賠償金殘額ヲ救濟ニ利用スル件ニ付本年
七月中在支公使ヲシテ支那外交總長トノ間ニ覺書ヲ交換セシ

中法實業銀行ニ關シテ兩國大論行ハ歐東各報ニ支取テ亦スルハ
(註) 此種日通文津雜誌「ロンドン」ハ十月正日土法外交委員會ニ於テ

メタル結果兩國間協定ヲ得之カ承認ニ關スル法律案ヲ豫テ議
會ニ提出中ナリシカ同案ハ十一月十六日下院ヲ通過セリ
右覺書ニ依レハ佛支兩國政府ハ團匪事件對佛賠償金殘額ハ之
カ引當ニ佛國政府ノ名ニ於テ發行セラルヘキ五分利附金弗建
公債(之ヲ中法銀行在極東債權者ニ分配セル證券ト引換フ)
ノ償却及利子支拂並佛支兩國政府間ニ於テ毎年北京ニ於テ決
定セラルヘキ條件ノ下ニ教育又ハ慈善ニ關スル佛支事業ニ充
當セラルヘキコトヲ同意シ居レリ

會ニ對出申セリシニ同答ハ十一月十六日才完ク既成ナリ

一、内閣一部改選事情

「ボアンカレ」ト法相「バルツ」トノ關係ハ「ゼノア」會館
以來疎隔ノ度ヲ増シ來リ首相ハ歷代内閣ノ暗火山ト稱セララル
「バルツ」ヲ内閣ヨリ体ヨク逐出サントスル考ニテ茲ニ「バ
ルツ」ヲ在獨大使ニ推薦シタルモ一身上ノ老會ニテ餘遠シガ
ルニ依リ賠償委員會ノ幹區代表「シュボア」ノ職務ニ能足ラ
サル折柄其ノ後釜ニ据エントシ他方内相「モーヌリー」ハ其ノ
色彩左黨ニ接近セル爲下院多數黨ノ不平少ナカラス首相ハ其テ
其ノ辭職ヲ望ミ居ルモ本人カ之ヲ承知セサル爲結局其位トナリ
タルカ由ク其他ニモ二三ノ部員ヲ豫想セラレタルカ十月五日閣
議ノ結果「バルツ」ノ轉任決定シ内閣議長次官「コルラー」

(28)

「オスマン」イ志「メタ」イノ調「ハ」イノ「イ」イ
一、四函一冊送致奉計

其後ヲ裁ヒ法布ニ任セラレ又外務省ニ於テハ在獨大使「ローラ
ン」辭任シ現駐白大使「ド、マルヂユリー」其後任ニ轉シ外務
省行政及專門局長「モリス、ヘルベツト」駐白大使ニ任スル
コトニ決定セリ